

## バラ ラジュ ニック

### 経歴概要

バラ ラジュ ニックは、現在、マレーシア科学大学社会科学部にて主任客員講師を務めており、ネパール・ソーシャルワーク学院 ( [www.nepalschoolofsocialwork.org](http://www.nepalschoolofsocialwork.org) ) の設立時の学長です。自身の理念は、ネパールにおいてソーシャルワーク教育を強化し、専門職としてのソーシャルワークの国家と社会による認知を求めることです。現在は国際ソーシャルワーク学校連盟 ( IASSW ) の理事会において活躍しており、以前はアジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟の理事でした。関心のある研究領域は、紛争後及び移行中の国々におけるソーシャルワーク教育、災害、子ども、高齢化、国際ソーシャルワーク、アジアにおける社会政策比較、大学によるコミュニティへの関わりを含みます。



ニック博士は、幅広いソーシャルワーク及び社会科学の学術誌と専門書において論文及び章を公表してきました。最近の出版物は以下を含みます。

- Nikku, B.R & Hatta, Z.A (2014編集). Social Work Education and Practice: Scholarship and Innovations in the Asia Pacific 『ソーシャルワーク教育と実践：アジア太平洋における学術研究とイノベーション』 (Primrose Hall Publishing Group: Australia出版)
- Politics, Policy and People: Irrigation Governance in a South Indian State 『政治・政策と国民：インド南部のある州における灌漑管理』 (Nova Science: USA出版)
- Social Work Education in South Asia: Diverse, Dynamic and Disjointed? 「南アジアにおけるソーシャルワーク教育：多様か、活発か、それとも分断されているのか」 in Global Social Work : crossing borders and blurring boundaries 『グローバルなソーシャルワーク：国境線を越えて、境界線を無くして』 (シドニー大学出版)
- Building Social Work Education and the Profession in a Transition Country: Case of Nepal 「移行中の国におけるソーシャルワーク教育と専門職の形成：ネパールの例」 (Asian Social Work and Policy Review 『アジア・ソーシャルワーク及び社会政策論評』 )

ニック博士は現在、International Social Work Journal 『国際ソーシャルワーク学術誌』 (Sage出版)、Journal of International Social Issues 『国際社会問題学術誌』, (ウ

イノナ州立大学出版)、Practice: Social Work in Action 『実践：ソーシャルワーク活動』(Routledge出版)においては編集顧問委員会の委員として、Social Work Education:The International Journal 『ソーシャルワーク教育：国際学術誌』(Routledge出版)においては共同編集長として活動している。(262英単語)

## IASSWのビジョン

ソーシャルワーク教育は科学で芸術の一種であり、2005年に妻のプラニタ ブサンウダスと一緒にネパール・ソーシャルワーク学院を創設する機会に恵まれて以来、私にとっての宿命になりました。南アジア、特にネパールにおけるソーシャルワーク教育の構築において役割を果たしてきました。IASSWの理事会の構成員として一期(2012年~2016年)を務める貴重な機会を得てから、アジアにおけるソーシャルワーク教育を更に強化するための努力に対する動機が強まりました。そろそろIASSWの執行理事としての最初の一期を終えますが、この独特な組織の役割及び影響力について学んできました。過去5年のIASSW及び世界中の仲間との仕事を通じて、実際のスキルを取得し、学生のためになる逞しいソーシャルワーク教育と責任のある仕事に就くための支援の間の関係がみえてきました。ソーシャルワークの学校と個人的なソーシャルワーク教育者の組織として、IASSWは、例えばネパール、スリランカ、アフガニスタン、イランのように特に紛争後及び移行中の国々におけるソーシャルワーク教育を強化するために、人的及び経済的な資源を獲得し、投資するように独特な役割とより重大な責任を担っています。執行理事としての自分の役割は、IASSWのこれらの目標に向けて更に貢献し、かつソーシャルワークが生き延びるために奮闘している移行中の国々のソーシャルワーク教育者が直面する課題と困難を訴えることと認識しています。機会を与えていただければ、IASSWを通してこれらの領域における活動に貢献し続けられるように、自分の時間、スキル、資源を捧げたいと思います。ソーシャルワーク校世界調査委員会の現在の委員長として、IASSWと共にソーシャルワーク及び社会開発分野の諸機関が活用できる最新情報のデータベースを設立することで業務を継続することに特に関心があります。災害におけるソーシャルワークに関する活動を続けることに、特にネパールや地域内の他の国々において発生した最近の大地震後のソーシャルワークによる事後介入にも関心があります。家族と協働し、生活再建を支援するために適切なスキルを身につけている学生の養成に向けて、ソーシャルワーク教育者及びソーシャルワーク校がより積極的になる必要があります。IASSWに対する私のビジョンは以上となりますが、

自分の時間と労力で執行理事として貢献できることを嬉しく思っています。皆さんの支援を頂けて、どうもありがとうございます。(421英単語)